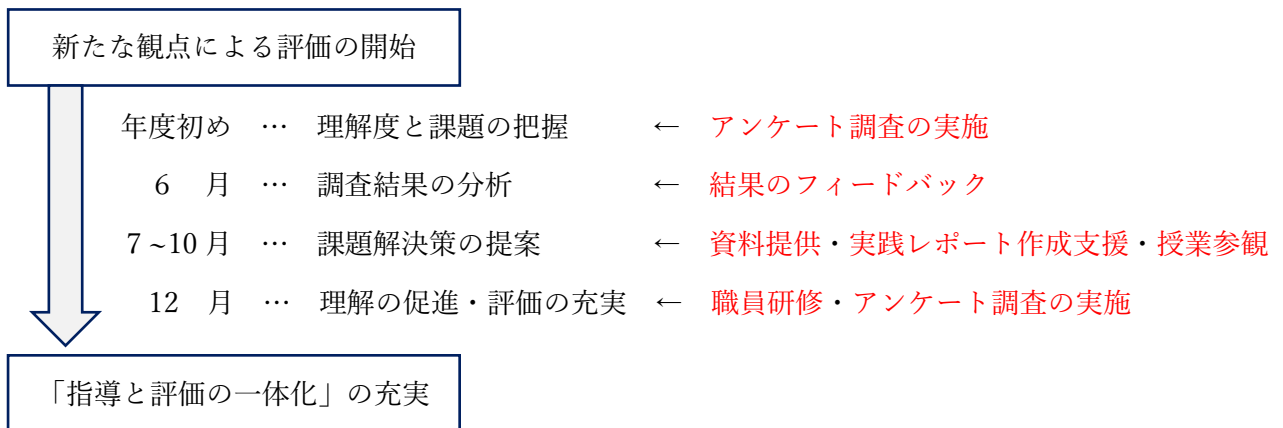


「指導と評価の一体化」の充実を目指して — 実践レポートの作成と活用を通して —

長期研修員 柴崎 晴央 ・ 角田 智則

1 研究の方向性



2 「指導と評価の一体化」実践レポートの提案

(1) 1のアンケート調査から
明らかになった課題

具体的な取組のイメージがわからない

「評価の具体」の作成・閲覧を通して…

- ① 「指導と評価の一体化」の充実につなげることができる (授業者)
- ② 「観点別学習状況の評価」について具体的なイメージをもつことができる (閲覧者)

(2) 1のアンケート調査から
明らかになった課題

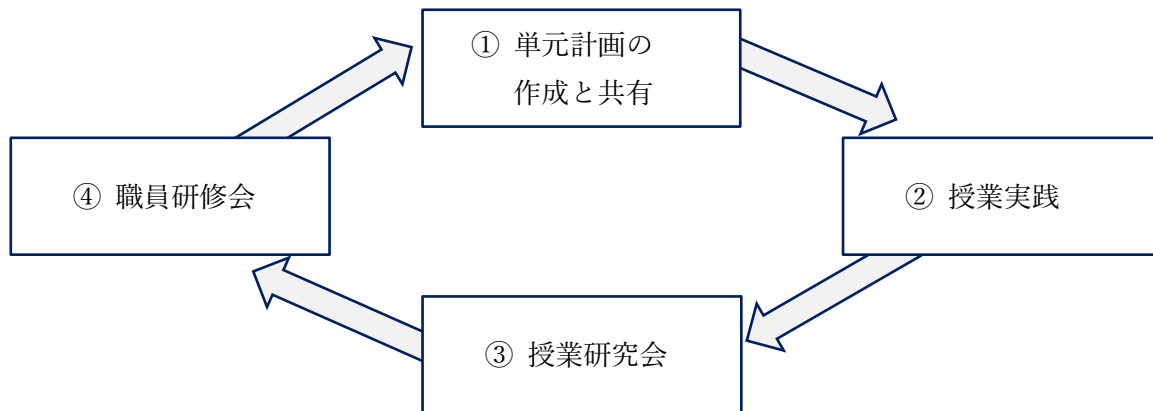
評価規準の検討や共有ができていない

単元計画を協働して作成することを通して…

- ① 教科・科目内で学習活動、評価の観点、評価方法、評価規準の検討や共有ができる
- ② 教材を担当者間で共有し、教材作成の負担を軽減することができる
- ③ 担当者ごとの評価規準のブレが生じないようにすることができる
- ④ 単元計画が整理されるので、生徒に事前に示すことができる

3 実践レポートの活用

* 実践レポートの活用を通して「指導と評価の一体化」の充実を目指す過程の一例



4 成果と課題

(1) 成果

① 実践レポートの活用（研究協力校での取組）

職員研修会後のアンケート ⇒ 「観点別学習状況の評価」についての理解が深まり、「指導と評価の一体化」の充実に向けた意識が向上している様子が見られた

職員研修会での記述内容 ⇒ 【「指導と評価の一体化」の充実に向けた具体的な取組】【評価規準や評価方法の共有】に関する工夫やアイデアの提案が見られた

※「実践レポート」の研修的な活用の成果

② 実践レポートの集積（授業参観等）

⇒ 各教科・科目の年次経験者研修に係る示範授業や代表者授業、特別研修員の研究授業等についての実践レポートを集積できた

※「事例集」としてまとめ、研究成果物として県内で共有予定

(2) 課題と提言

《課題》 研究協力校での一連の取組では指導計画の改善まで十分に扱うことができず、評価を次につないでいくという意識の向上が不十分であった

《提言》 実践レポート等を活用しながら、指導の計画や評価の記録を共有財産として蓄積し、次の取組のガイドラインとして活用する！



そうすることで…

- ・ 授業づくりの負担が軽減されるとともに、指導内容や評価規準のブレが無くなる
- ・ 次の指導の計画を改善しながら、より効果的な授業づくりが可能になる

⇒ **学校全体で「指導と評価の一体化」を更に充実させ、
生徒の資質・能力の向上を目指す！**

「指導と評価の一体化」実践レポート

授業者	
学校名	

1 教科・科目と単元（内容のまとめり）

教科・科目（学年）	国語・現代の国語（1学年）
単元	文章の内容や構成、論理の展開などについての的確に捉えて要旨や要点を把握して、論理的な文章における筆者の考えをまとめよう。（田口茂「時を編む人間」 数研出版『現代の国語』）
単元の主な学習目標	言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解できる。〔知識及び技能〕(1)ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握できる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ア 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

2 単元の評価規準

知識・技能	言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。（(1)ア）
思考・判断・表現	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。（C(1)ア）
主体的に学習に取り組む態度	文章で使われている語句や表現を活用しつつ、文章の論理の展開について叙述を基に的確に捉えて記述する活動を通して、自らの学びを調整しながら、要旨や要点を把握することに粘り強く取り組もうとしている。

3 単元の指導と評価の計画

※ 単一の学習活動について、評定に用いる評価（○）・学習改善に生かす評価（●）が複数ある場合、特に見取りたい観点到に「*」を付し、それに係る評価方法と本時の学習状況を見取るための規準を右に記載する。

本時	時	主な学習活動等	評価の観点			評価方法 （*のみ）	本時の学習状況を見取るための規準（*のみ） 【「おおむね満足できる」状況（B）の規準】
			知	思	態		
	1	○単元課題に取り組む。（1回目） ○学習プリントに取り組むことを通して、本文の内容や構成を理解する。 ○振り返りシートへの入力を通して、自らの学びの過程を振り返る。	●		●*	Google フォーム	自分の記述の自己分析を行うとともに、単元課題に生かしたい視点や表現を言語化しようとしている。
	2	○記述課題に取り組むことを通して、本文の内容や構成を理解する。 ○振り返りシートへの入力を通して、自らの学びの過程を振り返る。	●		●*	Google フォーム	本時で学んだことの自己分析を行うとともに、単元課題に生かしたい視点や表現を言語化しようとしている。
○	3	○単元課題に取り組む（2、3回目）ことを通して、本文の要旨や要点を把握する。 ○振り返りシートへの入力を通して、自らの学びの過程を振り返る。		●	●*	Google フォーム	本単元で学んだことの自己分析を言語化し、今後の学習活動に生かそうとしている。

4 学習評価の具体

時	本時の学習活動等	本時の学習評価の概要		本時の学習状況を見取るための規準	
				十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)
	○単元課題に取り組むことを通して要旨や要点を把握する。 ○振り返りシートの入力を通して自らの学びの過程を振り返る。	評価の観点	主体的に学習に取り組む態度	(B)の規準に加え、自身が学んだことをどのような場面で生かしていくか、具体化しようとしている。	本単元で学んだことの自己分析を言語化し、今後の学習活動に生かそうとしている。
		評価の種類	学習改善に生かす評価		
		評価方法	Google フォーム		

評価の具体 (生徒の学習状況の評価する際のポイント等)

(A)とした例

「学んだこと」 「できなかったこと」 「これからの学習に生かしたいこと」
 「できるようになったこと」 「次回見直したいこと」

「 <u>生きている時間</u> 」と「 <u>空間化された時間</u> 」の対比表現の読み取り方。文章の各部分から鍵となるところの文を使って筆者の意見のまとめを作ること。	「 <u>生きている時間</u> 」と「 <u>空間化された時間</u> 」に筆者はどのように思っているのかを読み取れなかったこと。筆者の意見のまとめを無駄なく簡潔にまとめること。必要な部分を的確に選ぶこと。	「 <u>生きている時間</u> 」と「 <u>空間化された時間</u> 」のような筆者が対比している部分を見て筆者はどのような考えをもっているのかということ推測すること。また、一方、これに対してなどの接続詞に反応すること。
--	--	--

⇒それぞれの質問項目に対して、具体的な言語化ができています。

【(B)規準に加えて】「学んだこと」を「これからの学習」にどう生かすか、具体的に想定できている。

(B)とした例

「学んだこと」 「できなかったこと」 「これからの学習に生かしたいこと」
 「できるようになったこと」 「次回見直したいこと」

<u>空間的な時間と生きて動いている時間がどのようにあるのかについてのまとめ方。</u>	<u>空間的な時間と生きて動いている時間の比較</u> があまり詳しくできていなかった。	単元課題のまとめ方やキーワードの探し方を今後の国語の授業で生かしていきたい。
--	--	--

3 ⇒「学んだこと」「できなかったこと」については具体的に分析できているが、「学んだこと」を「これからの学習」にどう生かすか、という想定が具体的にできていない。

【手立て】「学んだこと」をどのような場面に生かせるか。既習の文章で想定してみるよう助言する。

(C)とした例

「学んだこと」 「できなかったこと」 「これからの学習に生かしたいこと」
 「できるようになったこと」 「次回見直したいこと」

今まで学んだことを使って単元課題を書けたこと。	最後のまとめ方。	記述で書き出したことを単元課題にまとめること。授業の振り返りをする。
-------------------------	----------	------------------------------------

⇒それぞれの質問項目に対して、具体的な言語化ができていない。

【手立て】具体的な言葉を用いた自己分析の仕方について助言する。(疑問の余地を残さない記述へ)

フィードバックの工夫

振り返りシートの記述の中から、生徒の疑問点や読解不足の部分を抽出し、Q&A形式でフィードバックする。授業間に示し、生徒はこれを読んでから次の授業に臨む。

Q なぜ「世界」を支配しコントロールするものとして思い描くようになるのか あまりよく分らなかった
A 「世界」を地球規模のものとして捉えてしまうとよく分からないかもしれません。ここでの「世界」とは、「自分の前に広がる空間」のことです。「空間」は「時間の広がり」や「カレンダー的な時間」のことなので、「世界」＝「自分の前に広がるカレンダー的な時間」と捉えるとよいでしょう。
補足 「カレンダー的な時間」とは、自分が自由にコントロールできる(予定を立てられる)時間のことを指しています。

「指導と評価の一体化」に係る成果と課題 (例、△△したことで、□□ができるようになった 等)

- 【成果】・Q&Aで生徒の疑問に対するフィードバックを行ったことで、「学んだこと」に書かれる記述がより深いものになった。(⇒疑問の解消によって深い学びにつながった)
- ・自己分析をすることで、次の時間における個人の目標を立てさせることができた。(⇒学びの個別化)
- 【課題】・振り返りの記述の質を高めるために、自己分析の言語化についての演習を実施したい。

「指導と評価の一体化」実践レポート

授業者	
学校名	

1 教科・科目と単元（内容のまとめ）

教科・科目（学年）	公民・公共（1学年）
単元	第1編 公共の扉 ※『高等学校 公共』（第一学習社）
単元の主な学習目標	<p>単元を貫く問い：「皆にとってよりよい社会を作るにはどのようなことが必要だろうか」</p> <p>●単元を貫く問いについて、合意形成や社会参画なども視野に入れながら、様々な視野や視点から考察し、自分の言葉で表現する。【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>●単元の導入時に立てた学習の見通しや毎時間の授業の問いについての考察を踏まえ、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。【学びに向かう力、人間性等】</p>

2 単元の評価規準

知識・技能（技術）	主体的な社会参画と他者との協働に向けて、その際の選択・判断の手掛かりとなる倫理的概念や理論、公共的な空間における基本的原理などを概ね理解している。
思考・判断・表現	主体的な社会参画と他者との協働に向けて、その際の選択・判断の手掛かりとなる倫理的概念や理論、公共的な空間における基本的原理などの諸資料を基に様々な視野や視点から考察し、その内容を自分の言葉で表現している。
主体的に学習に取り組む態度	主体的な社会参画と他者との協働に向けて、その際の選択・判断の手掛かりとなる倫理的概念や理論、公共的な空間における基本的原理などを活用し、よりよい自己と社会の実現に向けて主体的に追究しようとしている。

3 単元の指導と評価の計画

※ 単一の学習活動について、評定に用いる評価（○）・学習改善に生かす評価（●）が複数ある場合、特に見取りたい観点に「*」を付し、それに係る評価方法と本時の学習状況を見取るための規準を右に記載する。

本時	時	主な学習活動等	評価の観点			評価方法 （*のみ）	本時の学習状況を見取るための規準（*のみ） 【「おおむね満足できる」状況（B）の規準】
			知	思	態		
	1	「皆にとってよりよい社会を作るにはどのようなことが必要だろうか」という単元を貫く問いに対する現時点での考えや意見をまとめ、振り返りシートに記述する。		●	●*	振り返りシート	単元を貫く問いに対する現時点での考えや意見を、これまでの学びなどを振り返りながら整理し、自分の言葉で表現しようとしている。
	2	自己分析ツール（ジョハリの窓）を活用し、自他の個性についてグループで話し合う活動を通して、青年期の意義を考察する。	●	●*		振り返りシート	自我や欲求などの青年期の心の働きに触れながら、青年期を有意義に過ごすための具体的な方策等を自分の言葉で表現している。
	3	キャリアパスポートを活用し、自分自身の進路や職業、生きがいを主体的に創造する意義について考察する。	●	●*		振り返りシート	「キャリア」の意味を正確に説明するとともに、今後の社会の変化を予測しながら自分自身のキャリア開発について具体化している。
	4	トロロコ問題などの思考実験を題材にして、人間としての在り方・生き方について考察する。	●	●*		振り返りシート	功利主義や義務論の考え方を正確に説明するとともに、「公正・公平」「正義」等の視点に着目しながら「公共的な空間に生きる人間はどう在るべきか」を多面的・多角的に考察し、自分の考えを表現している。
	5 6	【パフォーマンス課題】 ジェンダーバイアスの問題を題材として、単元を貫く問いについて考察する。		○	○*	ワークシート	「自己実現」「多様性」「個人の尊厳」等の視点に着目しながら、ジェンダーバイアスの問題を多面的・多角的に考察するとともに、よりよい社会の実現に向けての視点を主体的に追究しようとしている。
	7 8	イギリス権利章典、アメリカ独立宣言、フランス人権宣言に関する諸資料を活用し、市民革命の背景や意義を考察する。	●	●*		振り返りシート	それぞれの資料から読み取れる議会主権や自然権、社会契約などの考え方の意味を正確に説明するとともに、「市民革命によって人々の考え方や社会はどう変化したか」について考察し、自分の考えを表現している。
	9	立憲主義に関する諸資料を活用し、「法の支配」の原理の意義について考察する。	●	●*		振り返りシート	「人の支配」との違いに着目しながら「法の支配」の意味を正確に説明するとともに、権力濫用を防止することが人権保障の基盤であることなど「国家はどう在るべきか」について考察し、自分の考えを表現している。
	10 11	三つの班によるジグソー学習を通して、中国、イギリス、アメリカ、それぞれの政治体制の特徴を理解し、日本の政治体制との共通点や相違点を考察する。	●	●*		振り返りシート	日本の政治体制との共通点や相違点について、権力分立や議会制民主主義、法の支配などの原理に着目しながら多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現している。
	12	憲法改正案（松本案）とマッカーサー草案、現行憲法に関する諸資料を活用し、それぞれの共通点や相違点を考察する。	●	●*		振り返りシート	特に天皇の地位や軍・戦争の在り方等に着目しながら、松本案とマッカーサー草案の相違点を正確に説明するとともに、マッカーサー草案が現行憲法に与えた影響についても考え、自分の考えを表現している。
○	13	これまでの学習を振り返りながら単元を貫く問いに回答する。		○	○*	ワークシート レポート	単元を貫く問いについて、「人間の尊厳と平等」「個人の尊重」「公正・公平」「法の支配」などの観点に着目しながら多面的・多角的に考察するとともに、よりよい社会を実現するための視点を主体的に追究しようとしている。

4 学習評価の具体

時	本時の学習活動等	本時の学習評価の概要		本時の学習状況を見取るための規準	
				十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)
	これまでの学習を振り返りながら単元を貫く問いに回答する。	評価の観点	主体的に学習に取り組む態度	(B規準に加えて) よりよい社会を実現していくための解決策や新たな課題などについて、主体的に追究しようとしている。	単元を貫く問いについて、「人間の尊厳と平等」「個人の尊重」「公正・公平」「法の支配」などの観点に着目しながら多面的・多角的に考察するとともに、よりよい社会を実現するための視点を主体的に追究しようとしている。
		評価の種類	評定に用いる評価		
		評価方法	ワークシート レポート		

評価の具体 (生徒の学習状況の評価する際のポイント等)

* 単元の学習前と学習後での生徒の変容を見取る事例

【事例①】 A評価

学習前(左)は断片的な内容にとどまっていたが、単元の学習を通じて、より深く学ぶことができた。

① 協力、コミュニケーション
(互いに「信頼を置くことや、意見を交換するため)
○ 忍耐力、受けいれ力
(自分にとってつらいことでも耐え忍ぶこと、自分たちが意見を言いたいこと)

よりよい社会を実現するための解決策について追究している。

私は今までの授業を通して、青年期にいる者は悩み、考え抜くことを許さぬ。この社会を他人と開くべき多種性に触れ、それを直視し、また自分を構築していくことができた。国家が国民の生活を守るような空間を作ることが必要と考えた。そのために、日本国憲法等の目に見える国民の保障がこれ。国民自身も人権を守るために法を守り、自分たちで人権を侵害してしまつたことのないようにするべきである。つまり私にとってのみならず、よりよい社会の空間を作るには、相互を正しく理解し、皆できちんと法を守り、一丸となって人権や互いの存在を大切にする必要があると考える。

よりよい社会を実現することについて、授業中に学んだ「個人の尊重」「法の支配」などの視点を活用しながら、多面的・多角的に考察・追究している。

【事例②】 B評価

この生徒は、授業内容と身の回りの実生活を結び付け、単元の学習を振り返ることができた。よりよい社会に向けての解決策や課題がより具体的に書けていればA評価であった。

よりよい社会を実現することについて、授業中に学んだ「公正・公平」「人間の尊厳や平等」などの視点を活用しながら、多面的・多角的に考察・追究している。

一人一人がルールを守り、マナーを守る事を意識して行動する事が大切だと思ふ。例えば、電車やバスの中で妊婦さんが立ち寄りたがけたり積極的に席を譲るなど、公正公平に接する事が大事だと思ふ。そうすることで全ての人が平等に生活出来る様になる。逆に公正公平が無かったら、人と人との間に差が出来てしまい、不公平にかゝる事になる。例えば、僕は女だから重要な事は任せられないなど、差別化をせよと。それを解決する為に作られたのがポジティブ・アクション。男女共同参画社会基本法の制定などがある。このようによりよい社会を作る為には、差別を無くし、公正公平にする事が大切だと思ふ。

「指導と評価の一体化」に係る成果と課題 (例、△△したこと、□□ができるようになった 等)

● 成果

- ・ 単元を貫く問いや毎時間での具体的な学習目標を提示することで、その問いを追究する主体的な学習が実践できた。
- ・ 単元の途中でパフォーマンス課題を設定したことで、単元の途中での生徒の学びの改善と授業者の授業改善につながった。
- ・ 問いや評価形態が明確になることで、授業や評価のブレがなくなった。

● 課題

- ・ コメント記入で多くの時間を取ってしまったので、問いの工夫や精選を行う必要がある。
- ・ 単に毎時間コメント記入をさせるだけではなく、生徒の素朴な疑問や気付きなども書かせ、授業の軸としたい。(取り組んではいるがあまりうまくいっていないのが現状である)